

おいしい革命

アリス・ウォーターズ

私が菜園と食卓をつなぐ種を蒔いてから、早いもので二十五年から三十年になります。その中でもマーティン・ルーサー・キング・ジュニア中学校での活動は、将来多くの学校で行われるべき実験プログラムを念頭において意欲的に行っているものです。

子どもたちの未来がとても気がかりです。子どもたちに必要とされる教育、つまり大地を守り、自然を敬い、食べることや食卓を囲む大切さを教えられなければ、この世界は長くは続かないかもしれません。かつて教師であった私は、どうかして公立学校に菜園をつくれないうか、そしてスクールランチプログラム（¹）とガーデンをつなぐ教育が実現できないだろうか、すべての子どもたちが作物を育て、それを自らが調理し食べる活動の中に、学校で学ぶカリキュラムを織り込んだ、フレキシブルで魅力的な学習を可能にできないだろうかと思いはじめたのです。そして、数年をかけても駐車場だった場所を耕し、スクールガーデンは生まれました。

次に私たちは、そのガーデンで教える先生を探しました。学校の先生たちは目

の前の課題や必修カリキュラムをこなすだけです。手いっぱいですから、シェ・パニース財団を設立して寄付金を募り、専任教師を雇い、学校の中に別のもうひとつの学ぶ環境をつくりました。現在エディブル・スクールヤードでは、教師と生徒と履修科目をキッチンクラス、ガーデンクラスルームで結び、従来の教育とは異なる体験型の学習を行っています。理科の授業では、先生がガーデンに生徒を連れ出し畑の面積を計算したり、灌漑設備のための計測や、種の蒔き方を教えたりしています。美術のクラスでは植物やガーデンの絵を描いたり、国語の時間は作文課題を与えるなどして、エディブル・スクールヤードは教科指導を効果的にサポートするラボ（研究室）として育っています。

これは、いままでの公立学校では存在しなかったカリキュラムです。見る、聴く、触る、匂う、味わうなどのすべての感覚を使いながら、野菜を育て、収穫し、料理をして、大きなテーブルに皆で座って食べることにつながる学校教育。でも、その目的は、喜びをもって人々に食事を提供することを通して、あるべき農業の、生産の姿を子どもたちに伝えていく、生きることの基本を教えることにあります。

二〇〇七年春、各方面からの多大な寄付と支援によって、全校生徒約千人の子どもたちが利用できるカフェテリアが完成します。私たちはそのために、たくさんの食材を地元の有機農場から購入します。つまりキング中学校の校区では、百キロ強のジャガイモが一回の食事で使われることになるのです。野菜の他にも、

(1) スクールランチプログラム

現在、「スクール・ランチ・イニシアティブ」として、シェ・パニース財団、パークレー校区、センター・フォー・エコリテラシー、オークランド幼児病院研究所の協力で行われている。パークレー校区内の公立学校を対象に食と教育を複合し、配食サービスの刷新を図るもの。学ぶ環境としてのガーデン、キッチンクラスルーム、ランチルームを用意し、学びと体験を合致させ、地域コミュニティ、生産者とのつながりがもてるようプランが組まれている。

<http://www.schoolsunchinitiative.org/>

牛乳、バター、卵……、それらの食材はどれもサステナブル（持続可能）であることが条件になっています。この計画は、地域の持続可能な農業を支援し、コミュニティへとお金を還元するものでもあります。

いまや、たくさんの子どもたちが、自宅で家族とともに食事をしなくなっています。この現状は、学校側にその責任を担う必要性があることを訴えています。私たちは、エディブル・スクールヤードのようなモデルを各地で立ち上げ、プロジェクト内容を公開することで、この種の教育が実践可能な先導的実証例であることを示そうとしています。

アメリカでは、子どもの糖尿病や心臓病、肥満が伝染病のように増加しています。私のエディブル・スクールヤードでの経験から言えることですが、ランチプログラムを中心に据えたカリキュラムは、子どもたちの生き方を変えるものでもあります。

二〇〇三年六月、バークレー市教育委員会は、教育科目としてスクールランチを採り入れることに合意しました。これは、給食をただ用意するのではなく、それを履修科目として教育することを意味します。バークレー市校区内の一人もみの学生がスクール・ランチ・イニシアティブ（SLI）に参加することになります。SLI教育は幼稚園から大学まで、すべての子どもたちに新しい食との関係をもたらし画期的な教育であり、持続可能性の価値観と栄養、食卓に着く喜びを学ぶこととなります。

これは学校において食を考えなおす革命的な道であり、私はデリシヤス・レボリューション、おいしい革命と呼んでいます。



この文章は二〇〇四年のアリス・ウォーターズ氏の講演記録をもとにまとめたものです。

